



たいしも通信

これからしばらくは自衛隊の装備についてお話してみようと思います。しよっぱなは、やはり海自関連から…。(^^)

◆いずも、かがの改修について

皆さんも、ヘリコプター搭載護衛艦の1番艦いずもと2番艦かがに、F35B 戦闘機を搭載できるよう改修が進められている、という話題は聞いたことがあると思います。

いや、F35は寸法が11×15m、重さもせいぜい15t、普通の対潜ヘリと極端な違いはなく、ならば改造しなくてもヘリ搭載護衛艦で運用でき、何なら大型貨物船にだって降りられるのでは? という疑問をお持ちの方もあると思います。

今回はこれらに対するハード、ソフト面でのQ&A特集をしたと思います。

●改造の主な理由とは

先に述べたF35にはA、B、C3つのタイプがあり、このうち垂直離着陸や短い滑走路での運用ができるのはB型だけです。A型は陸上基地用、C型は大型空母艦載用の各部強化型であり、空自が運用を開始したF35は現時点では実はA型のみです。とはいえ導入は決定しているので、やがてB型についてもまもなく運用訓練等も開始されるでしょう。

さて、B型は垂直や短距離離着陸を行うため、エンジンの排気を下向きに曲げ、地面方向に吹き出します。これがヘリやオスプレイであれば、ブレードで作られた単なる強い風なので問題はありませんが、ジェットエンジンの排気では約一千℃になるとも言われ、飛行甲板が致命的なダメージを受けてしまいます。そこで甲板を熱から守る改造が主なものとなります。

余談ですが、シュワルツネガー主演の映画「トゥルーライズ」で、ハリアーが公園に降りるシーンがあり、実際に米海兵隊の協力で実機を使用しましたが、公園にそのまま降りるとアスファルトが溶けてしまうため、熱対策のため専用の着陸パッドを公園内に作成して撮影したそうです。

●日本の空母保有について

空母とは航空機を多数搭載し、海上で航空基地の役割を果たす軍艦です。従って、たまたま緊急着陸できたとしてもタンカー等で運用できるとは言えません。通常の艦載型戦闘機を運用するとすると大型化の必要性が出てきますが(米空母は破格ですが参考全長337m 10万1千t)、垂直離着陸機の運用限定であれば、ぐっと小さくて済みます(いずも全長248m 2万6千t)。

また、自衛隊の任務を無理やり日本本土防衛のみと限定してしまい、日本から遠く離れた場所での戦闘を行うのは違憲だ、という人がいて(輸入は全て諦める!?)、これまでなかなか空母保有ができませんでしたが、昨今、南西諸島方面で戦闘機を運用する必要性が高まってきたため、空母の必要性が広く認知されるようになったというわけです。

▼▼編集後記▲▲

ステルス機はレーダー電波対処のため、兵装は基本的に機内収納であり、航続距離を伸ばすために増槽(燃料タンク)を機外にぶら下げたりするとステルス性が損なわれるため、世界中のステルス機は基本的に足(航続距離)が短く、昨今、空母は世界中で需要が高まっています(空中給油は弾薬補給ができない)。ところで、100機購入を決めたのは安倍政権時でしたが、F35導入そのものを決定したのは野田政権時だったりします。

例によって、内容に関する責任は全て支部長にあります。特に規則等に定めているもの以外は私の個人的見解が色濃く反映されていますので、ご意見等ございましたら遠慮なくお知らせ下さい。